GX率先実行宣言

社会全体のGX加速化に向けて、GX製品・サービスの早期社会実装が極めて重要であることから、当社は自らのScope 1、2の削減取組に加え、これらの製品・サービスが有するGX価値の評価を通じてGX製品の社会実装に積極的に貢献することで、サプライチェーン全体でのGXを推進することを宣言します。

1.早期の社会実装に貢献するGX製品

当社は、以下に関連するGX製品の早期社会実装に貢献します。

a.	分類	産業競争力基盤強化商品
	対象	電気自動車等
b.	分類	低炭素水素等
	対象	水素
c.	分類	低炭素水素等
	対象	アンモニア

2.具体的な行動内容

当社は、前項で選択した事項に関連して、具体的には以下の行動を推進することで、GX製品の早期社会実装と社会のGXに貢献します。

a.	電気自動車等
対象行動	宣言対象製品の調達・購買
概要	当社グループは、社有車について電気自動車（PHEVを含む）を積極的に導入し、車両使用に伴うScope1の削減に貢献します。 さらに、他社との協業による「EVシェアリングの普及促進」や「マンションや職場への充電インフラ整備」等に取り組むことで、グループ一体となってEVを社会に広く普及させることを目指していきます。

b.	水素
対象行動	宣言対象製品の調達・購買
概要	当社は、燃料の安定的なサプライチェーンの構築や混焼技術の確立、経済性の確保を前提に、2035年にLNG火力発電における水素10％混焼を実現し、発電時のCO2排出量削減を通じて社会全体の脱炭素化に貢献します。

c.	アンモニア
対象行動	宣言対象製品の調達・購買

概要	当社は、燃料の安定的なサプライチェーンの構築や混焼技術の確立、経済性の確保を前提に、2035年に石炭火力発電におけるアンモニア20％混焼を実現し、発電時のCO2排出量削減を通じて社会全体の脱炭素化に貢献します。

3.サーキュラーエコノミーの推進

当社は、サーキュラーエコノミーを推進しGXを実現するため、自らのサーキュラーパートナーズ（CPs）への参画や、製造業者と廃棄物リサイクル業者との事業連携を自ら進めるとともに、再生材の調達を積極的に検討することによって、新たな資源の使用や消費を最小限に抑え、既存の資源の価値を最大化する経済システムの構築を目指します。

4.温室効果ガス削減目標の設定

当社は、サプライチェーン全体でのGXを推進すべく、Scope3の削減に向けて以下の目標を設定します。また、第2項に記載した行動内容が、Scope3の削減に対してどのような効果があるかを以下に示します。

※ 第2項に記載した行動内容がScope1,2の削減に資する場合は、Scope1,2の削減に関して以下に示します。

a.	電気自動車等
削減対象	
目標年度	
基準年度	
目標削減率	
削減目標における選択対象の位置づけ	

b.	水素
削減対象	
目標年度	
基準年度	
目標削減率	
削減目標における選択対象の位置づけ	

c.	アンモニア
削減対象	
目標年度	
基準年度	
目標削減率	
削減目標における選択対象の位置づけ	

5.GX製品の社会実装促進に向けた目標の設定

当社は、前項に掲げた削減目標に基づき、以下の時間軸・定量的目標に沿って、第1項で選択したGX製品・技術及びそれらから派生するサービスの社会実装に貢献します。

a.	電気自動車等
目標年度	
定量的目標	
選択対象に関する定量的目標の概要	

b.	水素
目標年度	
定量的目標	
選択対象に関する定量的目標の概要	

c.	アンモニア
目標年度	
定量的目標	

選択対象に関する定量的目標の概要	

6.適用範囲

当宣言は、以下の範囲まで適用されます。

適用範囲	子会社

a：自社（九州電力㈱）、九州電力送配電㈱及び九電みらいエナジー㈱に限る。
b、c：自社（九州電力㈱）に限る。

当社は、この宣言に基づいてGX価値を評価し、GX製品の早期の社会実装に貢献することで、サプライチェーン全体でのGXを推進してまいります。

2026年9月28日

九州電力株式会社
（代表取締役社長執行役員）西山　勝